

# にじのへやだより

令和6年1月発行

(vol.5)

病児保育室にじのへや

蕨市病児・病後児保育事業

新年明けましておめでとうございます。新しい一年が皆様にとって笑顔があふれる年になりますよう、お祈り申し上げます。昨年は多くの方にご利用いただき、子どもたちの笑顔にたくさん出会うことができました。

◦ 何度かご利用いただいているご家庭とは、共にお子さまの成長の喜びを共有することができ、嬉しい限りです。当園をご利用の際はお子さまのご体調だけでなく、ご家庭でのケアの方法なども看護師や保育士にお気軽にご相談ください。

今年度も残り3ヶ月、どうぞよろしくお願いたします。

## 利用内訳（年齢別）

11月 利用者数 30名・登録者数 15名

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
0	5	13	6	4	1	1	0

12月 利用者数 10名・登録者数 3名

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童
0	0	2	3	3	2	0	0

## 利用児童の疾患

1. 上気道炎 20名
2. 咽頭炎 6名
3. 胃腸炎 6名

11月上旬は暖かい日が続きましたが、急に寒くなると胃腸炎などの感染症になるお子さまが増えました。食事は無理をせず、食べやすいものを少しずつ摂取して様子を見ました。

にじのへやでは、お子さまの症状に合わせて一人ひとりのペースでゆったりと過ごすことができます。

まだまだ寒い日が続く、インフルエンザなどの感染症も増えると予測されるので、手洗いうがいや消毒、室温湿度の調整をして、快適に過ごせるようにしています。

## 保育の様子



体調に合わせて無理なく  
食べられるようにしています。  
レトルトも対応可能です！



新しいおもちゃが増えました✧  
1人でもじっくり楽しめるように、  
おもちゃだけでなくシールやぬりえなどもあります♪



# お薬にまつわるQ&A



受診を重ねるうちに、余ったお薬がたまってきた…これはいつまで使えるのだろうか？等の疑問がある方もいらっしゃるかもしれません。ここでは、そんなお薬に関するよくあるご質問について、お答えいたします。

## Q. 家に薬が余っている場合、飲ませてもよいのでしょうか。

A. 一般的に薬の使用期限は、薬の種類ごとに右の表のようになっています。しかし医師に処方される薬は処方された日数の期間内に飲み終わることを前提としているので、その期間を過ぎてしまった場合は、原則、破棄することが望ましいです。

薬の種類	使用期限
粉薬	3～6ヶ月
カプセル・錠剤 坐薬・軟膏	6ヶ月～1年
点眼薬	1ヶ月
シロップ剤などの 液状の薬	残ったものは破棄する (細菌が繁殖している場合があるため)

また、同じ症状でも、病気が異なる可能性もあるため、「体調不良になったら家に余っている薬を飲む」

のではなく、その都度受診して新たに薬を処方してもらうようにしましょう。

また、子どもの薬の量は、体重や年齢によって変わります。古い薬を飲んだり、同じ病名や症状だからといってきょうだいに処方された薬を使用したりすることは絶対にやめましょう。

## Q. 薬を飲ませるのをうっかり忘れてしまいました。どうすればよいですか？

A. 1日1回の薬の場合……気付いたその時に飲ませましょう。

1日2回以上の薬の場合…次の服用までに時間がある場合は、飲み忘れに気づいた時点ですぐに飲ませましょう。次の服用時間が近い場合は、1回分をスキップし、その次からいつものように飲ませましょう。

忘れたからといって、2回分をまとめて飲ませることは、絶対にやめましょう。

## Q. 症状が良くなったので、薬を飲むのをやめてもよいですか？

A. 「良くなった」と自己判断で内服をやめることはしないでください。菌が残っていて症状がぶり返したり、重くなってしまう場合があります。特に抗生物質は、出された日にち分はきちんと飲み切ってください。医師にあらかじめ、どのような状態になったら薬をやめてもよいか聞いておくといいでしょう。

## Q. 子どもが薬を飲むのを嫌がります。どうすればよいのでしょうか？

A. 小さなお子さまは、薬の味やにおい、舌触りなどが苦手な飲むのを嫌がる場合があります。

むりやり飲ませようとすると、余計に薬が嫌いになってしまいますので、薬を飲みたくなるような雰囲気づくりをしたり、ゼリーなどの飲食物に薬を混ぜて飲ませたりなどの工夫をするとよいでしょう。



詳しくは、「にじのへやだより(令和4年1月発行 Vol.5)」に掲載しています。あわせてご覧ください。

## 【にじのへやでお薬を飲むときは】

医師の処方による内服中のお薬(1回分・記名をしてください)とその説明書(処方せんやお薬手帳)・お薬を混ぜる飲食物(ご家庭でお薬を飲食物に混ぜて内服している場合)・スプーンやスポイト(ご家庭で内服時に使用している場合)をお持ちください。お子さまに合った方法でお薬の内服をお手伝いいたします。

